

食い尽くし系夫が増殖中。阪神 藤川監督妻も共感

家族で海外に渡った経験のある藤川監督

加藤ローサ型

離婚を招く7法則



松井は「紙の問題だけ」と言うが

格段にラクになった。今でも女友達の間では、彼女の話題でもちきりです

いまや離婚のカリスマとなっているのが、加藤ローサ(40)だ。

発端は八月十七日に放送された『おしゃれクリップ』(日本テレビ系)にゲスト出演した際、サッカー元日本代表の松井大輔(44)と離婚していた事実を公表したことだった。

「二人は二〇一一年に、授かり婚」。当時、松井はフランスのクラブに所属していた。身重の加藤は結婚以

降、夫の移籍に合わせてヨーロッパを転々としながら出産と育児に奮闘してきた」(女性誌ライター)

加藤の告白が大きな反響を巻き起こしたのは、決断の背後に見え隠れする苦悩に、多くの女性たちが自分の姿を重ねたからだ。プロ野球、セ・リーグで優勝を果たした阪神・藤川球児監督の妻の英子さんも、小誌の取材に「全部頷けましたね」と吐露していた(九月十八日号)。

加藤の苦悩の一例が、今年一月のウェブ媒体のイン

タビューで披露したエピソード。松井が「食べ物が目の前にあると全部食べてしまう」というものだ。番組放送後に改めて注目を集め、「食い尽くし系夫」と話題になった。夫婦共働きのB絵さん(四十代)が言う。

「別に大喧らいなのが悪いわけじゃない。私は、おいしそうなお菓子を見つけた

ら夫の分も買うとか、いつも氣遣っているつもり。なのに夫側からは、相手や子供の分も残しておこうという、家族への思いやりが見えないのが嫌！」

他にも、結婚十周年を迎えた二一年には、加藤が自身のインスタで松井から指輪を贈られたことを報告。(想像を超えるキラキラし

一カ月経った今も世の女性たちの共感を呼び続けているのが、加藤ローサが公表した同居離婚だ。夫の「食い尽くし」問題やキラキラな指輪事件など、その夫婦生活には様々な地雷が隠れていた。あなたの家庭は大丈夫？

『おしゃれクリップ』より

「わかるウ〜〜！」
「うちもそう！」

ある女優の離婚告白に、女性たちの共感の叫びが広がっている。都内在住で離婚歴のあるアラフォー女性A子さんも、深く頷いたうちの一人だ。

「私も、妻」という役割から降りたことで、気持ち

「トリセツ」シリーズの黒川氏



山本氏

五百田氏(左)、岡野氏

ここまで読んで、「うちは普段から夫婦喧嘩もしないし、仲がいいから大丈夫」と思っている方、果たして本当にそうだろうか。じつは加藤は前出のウェブ媒体のインタビューで、「結婚して13年、夫婦喧嘩をしたことない」と語っているのだ。

近著「人生が圧倒的にラクになる! 夫婦ONLINE AM思考」(講談社)がAmazonの恋愛・結婚・離婚部門などで一位を記録した夫婦コンサルタントの山本久美子氏は、④普段から夫婦喧嘩がなく、相手から不満をぶつけられないことも要注意だと指摘する。「夫婦間では楽しい話題だけでなく、お金のことや両親の介護など、難しい問

妻がイライラした態度さえ見せなくなったら、もはや危険水域。前出の岡野氏が忠告する。

⑥妻が愚痴を言わなくなった時、それは夫婦関係に不満がないのではなく、「この人には何を言っても無駄だ」と諦めている可能

夫は「他人事」と思うなかれ

ただ、私のもとに寄せられる妻側からの相談には「帰りが遅くて込み入ったことを話せない」「一度話したら雰囲気が悪くなったので、それから話せていない」という声が多い。妻側のこうした悩みが膨らむと、「夫は家庭の問題について話合ってくれない」という不満につながりかねません。お互いに避けているネガティブなテーマがあると気づいたら、夫の側から切り出してみるのも一手です。

⑤不機嫌オーラが出てくる妻を放置するのも危険だ。「妻が何か怒っていると気づいても、具体的な要因が分からないまま、数日が経つと通常モードに戻っていることはありませんか?」

夫は「言いたいことがあるなら言ってくれよ」と思いますが、妻自身もモヤモヤを言語化できないことが多いのです。だから「察して妻」となってしまう。妻の不機嫌オーラに気付いたら、落ち着いたタイミングで対話をしてほしい。子供が寝た後のちよとした時間でも構いません。対話を通じてアウトプットすることで、妻自身もモヤモヤの原因に気付く、答えが見つけれられるようになります」(同前)

性がある。愚痴は妻の我慢のシグナルなので、その都度ちゃんと話を聞いて、不和の芽を摘まなければならぬ。妻が黙っていたら、もう限界を超えているかもしれない。添い遂げることを誓ったはずの夫婦は、なぜすれ違

うのか。「妻のトリセツ」(講談社)がベストセラーとなった人工知能研究者の黒川伊保子氏の解説。

「脳の構造に性差はないのですが、違うのは脳の使い方。男性脳は『ゴール志向型』のため、一度定めた目標しか見えなくなりがちです。たとえば女性ならトイレで用を足そうと立ち上がった際、使用済みのコップや空き缶があればつい片づけますが、男性はトイレだけに視線をあわせるので、それらが目に入らない。妻が何度『置きっぱなしにしないでね』と言っても効果はありません。これは妻に対する思いやりがないのではなく、男性ゆえの脳の特徴なのです」

だが女性の脳も、ついでに片付けを自然に行うようプログラムされているわけではない。⑦妻が「置きっぱなし」「やりっぱなし」に気付かなくなることもある。それは、家庭への愛着が失われつつあることの現れだという。

「女性の脳の『ついでの気

付き」は、愛着のあるものにしかなれません。家族や家に対する愛着を失うと、妻も何も気付かなくなる。だからこそ妻は、気付きのない夫に対し、本能的に『愛がない』と感じるのです」(同前)

総じて浮かび上がってくるのは、コミュニケーションを通じて、夫婦間のズレを減らす努力の大切さだ。「男性陣は松井さんの離婚を他人事だと思っていることが多いように思います。それは無自覚のうちに家庭を軽視していることの裏返し。『この二人の離婚、どう思った?』という話題をきっかけに、夫婦で会話をしてみるのもよいでしょう。夫婦の形に正解はありませんが、確実に言えるのは、意思疎通ができない夫婦はうまくいかないということです」(五百田氏)

昨年、国内で離婚が成立した夫婦は約十八万組。うち四五%が結婚十年以上の夫婦だ。「七つの法則」をもとに、夫婦関係を見つめ直してみたいかがだろうか。

加藤は婚姻関係解消後も、中二と小六の二人の息子を育てるため、松井と同居。いわば「同居離婚」だ。これについて松井は「変わらず一緒に住んでますし、紙(婚姻届)の問題だけ」「自分としてはこれからも変わらない」と語っていたが、C美さんは一笑に付す。「同居しているといっても加藤さんの離婚は『子供が

自立するまでは一緒に暮らしてあげると、その後は別々に暮らす」という宣告と同じ。松井さんは異性として、完全に加藤さんから見限られていると思います。VTRでの松井さんの発言に、加藤さんは噴き出してしまったよね。『何もわかってないんだな』と感じたのだと思います」

じつは冒頭のA子さんも数年前、籍を抜いた後も同居する。加藤ローサ型離婚に踏み切った。

「DVのような決定的な理由があったわけではないのですが、子供が自立した後にも元夫と暮らすのは無理だなど思いました。熟年離婚は抵抗されそうでしたが、子育て中の同居離婚なら、『いずれ元サヤに戻るだろう』と期待するの、応じてもらいやすかった。でもこちらからすれば、一度籍を抜いてしまえば、後は好きな時に逃げられる。中学生の息子も両親と一緒に暮らせて嬉しそうだし、互いに仕事を持っているのでマシシヨンのペアローンもそ

心理カウンセラーで「不機嫌な妻 無関心な夫 うまくいっている夫婦の話方」(ディスカヴァー・トゥエンティワン)などの著書がある五百田達成氏もこう語る。「松井さんは、②婚前の恋人感覚でプレゼントをしたのかもしれない。でもこれは、子育てに奔走する相

手にミニスカのドレスを贈るようなもの。日頃からコミュニケーションができていれば、加藤さんが恋人から妻となり母となって、行動や振る舞いに変容していることに気付くはずですよ」

日常の意思疎通は必要不可欠。五百田氏は、松井が加藤に告げずに二刀流挑戦

夫婦喧嘩をしたことない

のままで。何より、妻という立場から降りたこと、で、『夫の世話を甲斐甲斐しく焼かなければ』という気持ちでなくなったのが精神的にラクです」(A子さん)

こうした実例や女性たちの声から見えてくるのは、夫が気付かない間に夫婦の亀裂が深まり、決定的な出来事なしに妻から突然離婚を宣告されることもあるということだ。

結婚離婚に関して、三十四年間で約四万件の相談を受けてきた夫婦問題研究家の岡野あつこ氏は、松井について「離婚に至る地雷をいくつも踏んできたことが

分かります」と指摘する。では、何が「加藤ローサ型離婚」を招くのか。今回のケースから浮き彫りになる「七つの法則」を紹介しよう。

まず、複数の識者が夫のNG行動として指摘したのが、結婚十周年の際の松井の「ギラギラ指輪事件」だ。「松井さんは、自分がいいと思う価値観を押し付けているに過ぎません。よかれと思った行為でも、①相手の気持ちをないがしろにしたサプライズは、かえって相手に『自分は大切にされていない』と思わせてしまう」(岡野氏)

を発表したのも、ルール違反だと指摘する。「夫婦になるとは、お互いが共同経営者として小さな会社を起業すること。どちらかが無断で新規事業を始めるような会社は、うまくいくはずはありません」

そのうえで③「実家ではこうだった」と一方的に家風を持ち込むこともNGだ。「たとえば実家という親会社では、母親が自動的にご飯を準備し、掃除や洗濯もやってくれたかもしれない。ですが、結婚して新たな家庭を作ったなら、それはもうよその家庭の話。家庭という会社を共同経営するためには、夫婦でよく相談し、親会社とは別の新たな企業風土や社則を作る必要がある」(同前)

指輪に関する加藤のインスタ投稿

kato_rosa 編集済み・2023週間前
ちよっと前の話です。

結婚10周年のお祝いをしました〜指輪まで頂いたりしたんですが、前日に「指のサイズなに?」とメッセージが来たので、薄々(いや、はっきりめに)指輪もらうぞと思っていました。

とは言い換えればギラギラした指輪で「これをつけて行く所なんてない!」日常使いができる物と交換する!!と云ってみたんですが、彼曰く「指輪につけて行く所なんて決まってるよ、似合ってるから毎日つけた方がいい」と。ああ、そうですか。うわ、子供達の運動会でお

*sweet10
*まったく甘味のない10年だった
*spicy10

ハッシュタグには「spicy」の文字が